

い。

土木工事完成の根本力となるものは實に請負當事者であるのであるが、我が請負界の現状に對し各種の改革を必要とする事は萬人の認むるところである。此の重大革新に當つてこそ土木技術者側よりの不動の主張が行はれ實行されなければならない。我が土木技術界の發展淨化の舞臺は確かに此の方向にある。請負界を下品として官界にのみ走り、隱居役にのみ之を任すが如き虚榮土木技術を以てしては眞の技術發展は期待し得ない。請負界の人物養成技術研磨に重心を置く土木技術界の發展こそ今後に於ける我土木技術界の一大懸案であり、請負業をして眞に淨化された産業化し、官民一致國土の開發に當らなければならぬと確信する。

行政機構改革よりも人的要素の改良が肝心

會員 伊 藤 剛*

近頃新聞紙上を賑やかしてゐるものに行政機構改革問題なるものがある。例によつて軍部の提唱にかゝるものであり、宮本武之輔氏は“水利と土木”誌上で次の如く述べてその必要を論じてゐる。

“膨脹し繁雜化した行政事務に對し數十年前の機構で満足出来る筈はない”と。併し私は思ふ、機構の改革のみで之を構成する人的要素が舊來以存では何にもならぬ。寧ろ後者の改良の方がより肝要ではあるまいかと。我が土木行政方面に例をとると山間水源地方では小支流を挾んで内務、農林兩省の砂防工事が蟻囀の斧を揮ひ合つてゐる。地方道路上では内務、鉄道兩省が省營バスを圍んで逆す道さぬで鞆當てをしてゐる。何れも自分の經驗、認識を最善と信じ之に鬭爭本能が加はつた結果に他ならぬ。これ等の人々を同じ室に入れ机を並べさせた所で相交らず偏した認識を振り廻して鬭爭本能を發揮するに違ひない。こゝに於て私は人的要素の改正を叫ぶのである。人なくして何の機構ぞ。人の叩き直しこそ非常時日本の最大急務では無からうか。例として土木界に於ける問題を考へて見やう。土木工事なるものは國家の保安維持、經濟發達上重大なる關係を有するものなることは言を俟たぬ。殊に自然の造山力に對抗する工事なるが故に此の力、恐る可き神の力に對しては充分の認識と敬虔なる態度こそ肝要なりと信ずる。徒らに心おごつて自然を制服したが如き自惚れを持つ可きでない。近年の大災害が之等の事情に起因した所多少共あると思はれるのは誠に遺憾である。人間養成即ち腹をつくり、精神を入れ交へ和協の精神を養ひ併せて經驗、認識を深めしむる仕事は云ふ可くして實に容易ならぬ仕事である。先づ小学教育から始まる。大学教育に至つては特に影響する所が多い。この點大学教授諸公のより多き助力を乞ふ次第である。一度學生が社會に出ては如何。これからが最も重要にして然も世に關心を持たれる事最も稀薄なる所である。まだ社會觀念も養はれず確たる自信も持たぬ之等の若鳥は遠く山間僻地に追ひやられる。技術者としては最も必要な經路ではあるが周圍は何の刺戟もなく理解もない。之等の間に放置して果してこの若鳥は健全なる育成をなし遂げられやうか。私が行政機構改革を卷添へにしてこゝに秃筆を呵して來た理由はこゝにある。世の先輩達よ、公務多端なりと雖も次の時代を双肩に擔ふ可き之等の若鳥の養成を眞劍に考へて下さらん事をお願いする。機構の改革は華やかであり、短時日で出来る、人の養成は地味な仕事であり長年月を要する。併し現在日本の根本問題は後者を措いて他に無いと私は信ずるのである(昭 11. 11. 10)。

* 内務技師 工學士 内務省土木局第 2 技術課勤務